施政方針に対する 代表質問

定例会初日に示された市長の施政方針や平成30年度予算に対して行う「代表質問」は、3月1日・2日の2日間にわたり、各会派からの代表6人により行われました。

（質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載）

持続可能なまちづくりを

民政会　八尋伸二

一　地域医療の充実について

問　八木病院移転用地として本市が所有する鈴張町の土地を確保するための基本契約の進捗状況はどのようか。

答　現在、八木病院が支援事業者と協議を重ねている段階であり、基本契約締結には至っていない。周産期医療は重要であるため、改めて検証し判断していきたい。

問　市長就任直後、秦野赤十字病院の院長と意見交換をしているが、広域医療に対し、市長はどのように考えているのか。

答　分娩を取り扱う医師のリスク軽減や、働きやすい環境整備が産科医師の確保につながる。分娩再開に向け、本市ができることを検討していく。また、広域医療については、将来的な課題として県や近隣市、地元の医師会と協議する。

要望　東海大学病院や伊勢原協同病院、県立足柄上病院と連携し、市内で子どもを産める環境整備や秦野赤十字病院へのさらなる支援なども並行して検討してほしい。

二　市民力の醸成（協働）について

問　これまで各地区でのまちづくり委員会や県人会を立ち上げるなど、一定の成果を上げていることは評価するが、若年層に対する市民力の醸成策がないと感じている。市長の考えはどのようか。

答　平成29年度から市民と行政が対等な立場で事業を提案する提案型協働事業を開始したが、まだ不十分だと認識している。今後は、庁内の各部署との連携や職員の意識改革を図り市民との信頼関係を深め、まちづくりを推進していく。

要望　高校生との連携などにより、若年層の地域リーダーづくりにつながる取り組みを検討してほしい。

市内で子どもを産める環境整備を（写真は秦野赤十字病院）

夢と希望にあふれる 持続可能なまちづくりを

自民党・新政クラブ　今井実

一　市長の政治姿勢と市政運営について

問　4年間、市政のかじを取るが、目指すリーダー像とはどのようか。

答　有言実行、率先垂範を掲げ、あらゆる場面でトップマネジメントを発揮し、国や県との信頼関係を一層強めるなど、期待され信頼される市役所づくりを進めていく。

問　本市の人口減少に対する認識と抑制への取り組みはどのようか。

答　人口増加前提のまちづくりから持続可能なまちづくりへの意識改革のみならず、5つの誓いと秦野みらいづくり構想2018を着実に進め、まちの魅力に一層の磨きをかけ人口減少抑制につなげる。

二　5つの誓いについて

問　安心・安全の向上に向けた地域医療の充実・強化はどのようか。

答　都市部への医師偏在など各病院は医師の確保が大きな課題となっている。救急医療の広域対応や医師確保について医師会と十分協議し、充実・強化を目指していく。

問　中学校給食の完全実施に向けた見通しや財源確保はどのようか。

答　中学校完全給食実施庁内委員会と保護者などを含めた中学校完全給食推進会議を組織した。双方の検討結果を基に基本方針や基本計画を早期に策定し、必要な財源はさまざまな工夫により確保する。

問　本市児童・生徒の学力についての認識と、教育水準の改善・向上に向けた取り組みはどのようか。

答　全国学力テストの平均正答率は全項目で全国や県の平均にも及ばず、大変危機感を持っている。教員の指導力向上のため先進校から学ぶプロジェクトの実施、学力向上のためICT機器の導入、支援助手の拡充など積極的に進める。

三　防災（減災）について

問　防災体制の整備方針と避難所環境整備の取り組みはどのようか。

答　平成32年度までに115カ所の防災行政無線のデジタル化を進め、総合防災訓練や土砂災害対策訓練をより実践的なものとし、高齢者や障がい者、乳幼児などに配慮した非常時用トイレなどを計画的に整備していく。

四　産業活力を創造し多彩な魅力に出会えるまちづくりについて

問　商店会の活性化には、地域の歴史や文化と融合したストーリー性が必要と考えるがどうか。

答　鶴巻の延命地蔵市や渋沢のえびす講など地域の伝統行事に商業者が積極的に参加し、地域と連携して活動を行う商店会を支援し、商業活性化に取り組んでいきたい。

問　落花生やそばの生産性向上を図る取り組みはどのようか。

答　落花生の作付面積に応じた財政支援により、栽培促進を図っている。また、国の農地中間管理事業を活用した農地集積などと並行して、そば作りに励む農業者の農業機械購入などを支援していく。

五　職員の人材育成と組織執行体制について

問　市長の職員に対する思いと、新たな人事評価制度はどのようか。

答　市民が期待する政策実現などに重要な役割を担い、欠くことのできない財産である。目標管理を導入し、高い目標に挑戦した場合は積極的に評価し適切に処遇する。

本市にあった人口減少抑制策を

市民との協働を築くためには わかりやすい丁寧な情報提供が大切である

公明党　山下博己

一　市長の政治姿勢について

問　市民との協働を築くために、どのような姿勢で取り組むのか。

答　市民の声に耳を傾け、語り合い、目的を共有する。

意見　丁寧な情報提供をすべき。

二　健全な財政運営について

問　市民の要望に応えながら、健全財政をどのように維持するのか。

答　マニフェストとの整合を図るための見直しを進め、事業の必要性や有効性など十分に検証する。

要望　岐阜県多治見市の財政規律を促す条例を研究してほしい。

三　市職員のスキルアップについて

問　自らが主体的に仕事の意義を考え、スキルアップを図る職員の育成が重要と考えるがどうか。

答　総合職か専門職を選択できる複線型人事システム導入を考える。

四　子育て支援について

問　小児医療費助成制度は中学3年生まで対象とすべきだがどうか。

答　マニフェストに掲げているため、適切な時期に実施する。

五　高齢者施策について

問　介護予防の一層の推進には、高齢者の社会参加で生きがいを作る仕組みが重要と考えるがどうか。

答　高齢者の社会貢献や、就労機会の創出など官民連携を検討する。

六　持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みについて

問　SDGsの理念を次期総合計画に取り入れたらどうか。

答　平成33年度からの次期総合計画に具体的な組み入れを検討する。

七　6次産業化の促進について

問　食ブランドの開発、発信に向け、6次産業化を進めたらどうか。

答　6次産業化に向け農業者の組織化、法人化など基盤強化を図る。

八　農業や自然を活用した特色ある学校づくりについて

問　上小学校の少人数学級や田舎の特色を生かすために、小規模特認校制度を取り入れたらどうか。

答　課題を整理し導入に向け学校とともに具体的な検討に入りたい。

小規模特認校制度を取り入れた学校運営を（写真は上小学校）

秦野高校で出前講座を開催

～高校生360人が「選挙と議会のしくみ」について学びました～

平成30年3月19日（月）に、選挙管理委員会事務局と議会事務局の職員が県立秦野高校に出向き、1年生360人に「選挙と議会のしくみ」について講義しました。

議会のしくみ、聞いてみませんか

議会事務局では、市民の皆さまの疑問にお答えするため、出前講座を実施しています。学校の授業、自治会や職場の研修会などで、議会のしくみを学んでみませんか。お申し込みは議会事務局（TEL0463-82-9652）まで

施政方針　…市長が新年度の市政運営の基本方針として、施策の方向性や、主な事業の取り組みを示すものです。

代表質問　…議員が所属する会派を代表して市長の施政方針や平成30年度予算について行う質問で、各会派の所属議員数に応じて質問時間が配分されます。